

# 人文研「人種表象の日本型グローバル研究」共同研究会 公開講演会のご案内

日時： 8月3日（火）15：00～

会場： 人文研 101号室（地図参照）

講師： ニカノール・ティオンソン（フィリピン大学教授）

演題： 『フィリピン新世代インディ映画における先住民イメージ』



※講演は英語で行われます。日本語による要約・解説つき  
※映画『Manaro』(75分)の上映を含みます

## 講師略歴：

フィリピンを代表する演劇・映画研究者。映画研究に関する業績としては、フィリピン映画の名作を網羅した解説・批評論文集であるの編著書である *The Urian Anthology 1970-1979* (1983)、*The Urian Anthology 1980-1989* (2001) や、*The Cinema of Manuel Conde* (2008) など多数。その他にも、フィリピン演劇史の研究 *Philippine Theater: A History and Anthology I, II, III, IV, V* (1999) や、フィリピン革命における女性の貢献の研究 *The Women of Malolos* (2004) などがある。また、劇作家として多くの戯曲を執筆、ASEAN 賛歌の作詞を担当するなど多彩な活動を展開している。

一方、フィリピンの文化改革運動においても中心的な役割を果たしてきた。ピープルパワー革命による民主化直後の1986年には、アキノ新大統領からフィリピン文化センター副館長兼芸術監督に任命され、8年間にわたってフィリピン文化の脱植民地化と民主化を促進するプログラムを精力的に推進した。近年ではシネマラヤ財団を創設し、2004年からはフィリピン文化センターを会場としてシネマラヤ映画祭を組織するなど、若手監督によるインディペンデント映画への支援を積極的に行っている。コンペ部門で入賞した作品のいくつかは、海外にも紹介されカンヌ映画祭などの国際的な賞を獲得した。

彼のフィリピン文化に対する貢献は、国内外で高く評価されており、国民書籍賞、国民言語研究所賞、オーストラリア文化賞などを受賞している。

## 講演要旨：

過去10年間、フィリピンのインディ映画制作者たちは一貫して、貧困層や周縁化された人びと—とりわけ、フィリピン諸島の山間部や僻地に暮らすエスニック集団の姿を意識的に映し出すことに努めてきた。本講演は、以下の作品における先住民の表象を、映画メディアと現代フィリピン社会における政治・社会的問題の歴史的文脈に関連付けて分析・批評するものである。

- ・『Manoro (マナロ)』(Brillante Mendoza 監督)におけるパンパンガのアエタ族
- ・『Ang Daan Patungong Kalimugtong (カリムグトンへの道)』(Mes de Guzman 監督)におけるコーディリア州のベンケット
- ・『Brutus (ブルータス)』(Tara Ellenberger 監督)における東ミンドロ島のマンヤン族
- ・『Hunghong sa Yuta (大地の囁き)』(Amel Mardoquio 監督)におけるミンダナオ島の先住民・イスラム教徒・ピサヤ族



## 主催

「人種表象の日本型グローバル研究」プロジェクト  
<http://kyodo.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~race/>

## お問い合わせ先

京都大学人文科学研究所 竹沢泰子研究室  
電話：075-753-6904  
FAX：075-753-6903  
メール：race@zinbun.kyoto-u.ac.jp